

# セ ボ ス

タガヤ

ランティア

ネットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン  
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2020.5 No.193

今月のトピック

特集●

だれもが安心して  
食事を楽しめる社会をめざして

まちの市民力！ ● 多様な学びプロジェクト@せたがや  
キラリ世田谷人 ● 特別編 いまできること～布マスクづくり～



イラストレーション●上山 力  
好きなもの、思ったことをイラストにすることを趣味にしています。イラストはInstagramでも公開しております。ぜひご覧ください。  
@rooks\_pooks

●わたしの世田谷

世田谷、特に二子玉川の街は昔からよく行く場所です。時代に合わせて変化していくこの街がとても好きで、家族ともにお気に入りの場所になっています。

## ●特集 だれもが安心して

# 食事を楽しめる社会をめざして



特定の食べ物に含まれるアレルギーによって、からだにさまざまな症状を起こす食物アレルギー。小さな子どもだけでなく、成人にも起こります。

息子さんが食物アレルギーと診断されて、現在も成育医療センターで治療を受けている、

割田隆之<sup>わりたかゆき</sup>さんは、「アレルギーがある人でも安心して外食を楽しめる社会にしたい」と、昨年、世田谷で団体を立ち上げました。お店に協力を呼びかけ、同じ悩みや不安を持つ多くの人たちが安心できるような助けになればと願って活動しています。

## 自身の経験から立ち上がる

厚生労働省が行った調査によると、約2人に1人は何らかのアレルギーを持っているといわれています。なかでも食物アレルギーは年々増加しており、個包装された食品については原材料の表示が法律で義務付けられています。外食は対象外で推奨にとどまっています。

現在小学校3年生になる、割田さんの長男が幼いころのこと。街角のドーナツ屋さんで「乳製品不使用」と表示してあったので口にしたらと、アレルギーの症状が出て救急搬送される、ということがありました。長男は乳製品の重篤な食物アレルギーで、ほんのわずかな量の乳製品でもアナフィラキシー（急速に全身にあらわれるアレルギー症状）を起こすのです。目の前で幼い命が脅かされる場に遭遇してから、割田さんの家族は日々食事をする中の恐怖と向



フードアレルギー・ジャパン  
代表理事の割田さん

かいあい、その経験からできるだけ楽しい食を、と心がけてきました。

しかし、たまには外食もしたいと街を歩いても、大手のチェーン店以外でアレルギーに対応しているお店を見つけることはなかなか難しく、長男を連れての外食は後ろ向きにならざるを得ませんでした。「アレルギーを持っていても、楽しくおいしく、みんなで食べられるお店が身近な街にあったらどんなにいいだろう」と考えた割田さん。企業に16年近く勤めていましたが、2018年末に退職

を決め、法人を立ち上げることにしました。2019年4月、割田さんが設立したのが「一般社団法人フードアレルギージャパン」です。家族の宿命だった食物アレルギーに関する課題を改善しよう、と思つてのことでした。

### 一緒に食事を楽しみたい

それにしても、安定した会社員を辞め、収入ゼロになつて非営利の社団法人を立ち上げるといふの



アレルギー症状例が多いとされる  
特定原材料7品目

は、大変な決意のいることです。「同じような悩みを抱えて困つている家族は多く、少しでも力になればと思つたのです」と語ります。「フード（食物）アレルギーは、命にかかわる問題で、世界共通の課題です。世の中の善意を形にしていく活動だ」と考える割田さん。食物アレルギーの方が家族や友人と安心して同じテーブルを囲み、笑顔で一緒に食事を楽しむ時間を自然に過ごせる社会を目指しています。

一からの活動を始めるにあたり、まずは今住んでいる世田谷、中でも生活圏である烏山周辺をターゲットにしようと考えました。そこから活動を発信し、その価値が次第に広く共有されることを目指しています。

「日本社会ではまだ十分に少数者が配慮されてはいません。アレルギーがあるとか、特殊な食事をするところでも、なかなか言いづらいところですよ」それでも誰もが同じよ

うに外食を楽しめる、行きやすいお店を見つけたいと、さっそくお店探しを始めました。お店の人と具体的に話し、協力を依頼する、という足元からのリサーチを積み重ねて行くことが活動の展開につながる、と考えるからです。そのためにも区の商業課を訪ね、世田谷区の商店街連合会につなげてもらえました。

### お店を味方につける

最初に訪ねたお店は、経堂駅近くにある「カフェ・マレット」。ランチやお茶がゆつたりと楽しめ、ライブが開かれる夜もありました。評判のハンバーガーは、パンもハンバーグも手作りなので、材料はすべて開示できます。「ゼロを1にするというタイミングでしたね」。マレットとの出会いはいきっかけとなりました。

八幡山にある中華料理屋さんにもヒアリングに行きました。調理

場の状況や洗い方を教えてもらい、ラーメンをはじめとしたすべのメニューで使用している主要なアレルギーを確認し、更にこれは除去できるというものも示してもらいました。一軒一軒のお店を回るのは気が遠くなるような話ですが、これまでに7つのお店が対応してくれました。

「お店が材料を明らかにしてくれると安心ですよ。こうした活動を通じて、例えば小麦や卵アレルギーの子どもにも食べられるゼリーをおこうか、とケーキ屋さんを考えてくれたら、第一歩だと思います」。アレルギーの子どもたちのことを考えるお店の姿勢がインターネットなどを通じて明らかになってきて、「うちもぜひ取材してください」との依頼が向こうからやってくるようになったらしい展開になることでしょう。

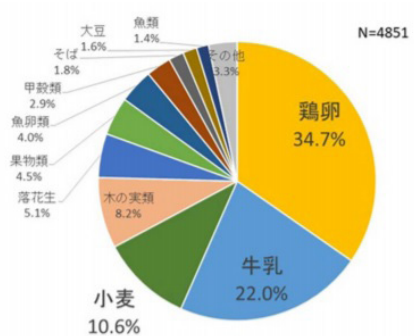
ネットでの飲食店検索サイトは一般には大変便利なものですが、そこには食物アレルギー対応の内

容やアレルギー情報は載っていません。「食物アレルギーを言いづらい少数者が、ふつうに外食できるお店がネットにたくさん掲載されることになれば、少しでも社会に風穴を開けることになるのではないでしょうか」と話し、また「顧客のアレルギー状態を知っていれば、会食の際に配慮したお店も選べる、という行動につながります」と会社経験の豊富な割田さんは言っています。

今年1月には食物アレルギー用飲食店等検索サービスを立ち上げ「SmileMenu」とインターネットで検索すると、協力してくれたお店の情報が得られます。「美味しく楽しい笑顔ある場を共にする」ことを願うコミュニケーションツールです。

### 外国人も安心して食を楽しむ

協力的なお店をひとつひとつ増やしていくという地道な努力の一



原因食物のグラフ(消費者庁 HP より『平成30年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書』)

方で、このような活動を広めていくことも大きな課題です。「世田谷ではまず子どもや家族をターゲットにと思っています。全人口の2〜3%が何らかのフードアレルギーを持っているという統計があり、特に乳幼児期には10人に1人、10%程度生じる傾向があるため、これから出産のご家庭も不安があると思います。アレルギーがわかったら離乳食はどうしたらいいの?と心配も増えます。うちがそうだったので、アドバイスも

きますよ」。食物アレルギーと育児についてのセミナーなども企画してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今は残念ながら中止せざるを得ない状況です。

食物アレルギーは日本人だけでなく、外国人にもあります。オリンピックは延期になりましたが、海外旅行者が日本に来た時に不安で食事ができない、ということがないように、英語での発信を始めることも考えています。「海外旅行者や外国人労働者が来店する可能性が増えれば、売上もあがる可能性にもつながりますから」



メニューに使用食材の表示があることを示すマーク（東京都が作成）

## 安心して食を楽しめるように

思い切って法人を立ち上げて、1年が経ちます。割田さんは開拓したお店のひとつ、中華料理屋さんにお子さんを連れていきました。「ラーメン、餃子、野菜炒め、けつこう食べられました」。アイデアもどんどん広がります。昨年度は息子さんが通う芦花小学校のPTAでイベント係を引き受け、「新年親子お楽しみ会」の炊出しを担当。カレーや豚汁などの炊出しメニューにアレルギーを表示してみよう、と提案したら、委員のみんなが賛同してくれました。「ほく、卵アレルギーだけ食べられるかな」とお子さんが来て、笑顔でカレーを手にしました。学校活動でもアレルギー表示の必要性を実感できた機会でもありました」と話します。

さらに、「何か事故が起きないうちに変えなくてはと思います。リスクを把握して行動することが

大人の生き方です。当事者として、社会と一緒に変えていきたいと思います、と呼びかけたい。各分野のプ口が得意なことを活かして対等な立場で。匿名で良いのでぜひお医者さんにもアドバイザーとして加わってほしい」と割田さんは続けました。

食物アレルギーだけでなく、疾患や宗教上の理由など、世の中には様々な食事の制約をもって生活している方がいます。その対象人数が少数者である場合には、大勢の方々に自然なこととして受け入れられることが必要です。

「フードアレルギーが、多様な食の『個性』のひとつとして、『当たり前』になる日を目指していきたい。誰もが安心して食を楽しめる社会にしたいですね」割田さんの願いは、食物アレルギーのあるなしに関わらず、誰も願ってもあります。

（取材／編集委員 星野弥生）



街全体を学びの場に  
**多様な学びプロジェクト**  
**@せたがや**

# まちの 市民力!!

取材・星野弥生

●  
街の中で地域やそこで暮らす  
人たちが一緒に活動している  
団体を紹介します

声掛けをし、  
2019年に  
「多様な学び  
プロジェクト  
@せたがや」  
を立ち上げま  
した。6人で  
スタートしま

したが、活動に共感する人が集ま  
り、今は10人になりました。

活動のひとつが「とまり木」づ  
くり。子どもたちが気軽に立ち寄  
ることができ、地域の大人がゆる  
やかに見守る居場所づくりです。  
松本さんの家の近くにある「楽ち  
ん堂カフェ」は、子どもたちにぜ  
ひ行ってほしいと思うほど、多世  
代の老若男女が共生する場だった  
ので、「ここを拠点にしたいので  
すか?」とお願いしました。

また、子どもが学びたいことを  
学ばせてくれる魅力的な「まちの  
先生」を探し出す活動や、未来の  
学びを世田谷で考えるための映画  
上映会や講演会なども企画しまし

た。昨年12月に開催したドキュメ  
ンタリー映画『みんなの学校』の  
上映会は、定員オーバーの大盛会  
でした。そこで集めた参加者の教  
育に対する意見は、世田谷区長と  
教育長に提出しました。

1年間の活動を経て、今年はや  
り子どもに寄り添った活動をしま  
う、とメンバーで話し合いまし  
た。「子どもの楽しく豊かな日常  
と可能性発掘隊をつくらう!」が  
合言葉となり、隊員の募集を開始  
しています。都合のいい時に「楽  
ちん堂」にいてもいい、訪れてく  
る子どもの遊びや学び、興味につ  
きあってほしいと願うするつも  
りです。地域の人も一緒になって  
子どもの面倒を見よう、という企  
画です。

子どもと地元の魅力ある大人が  
出会うところから、学校以外でも、  
身近な地域でだれでもいつでも学  
べる環境をつくり、ゆくゆくは「オ  
ルタナティブスクール」の実験場  
になれば、と夢は広がります。

お話を伺った松本敬子まつもとけいこさんは、  
二子玉川小学校でのPTA活動の  
中で、リヒテルズ直子さんによる  
オランダの教育についての講演会  
を開催し、「一人ひとりの子ども  
に合った教育がつけられたらいい  
な」と思うようになりました。  
ご自身のお子さんが4年前に不  
登校になると、一斉教育ではない  
教育を望む気持ちがあります強く  
なり、五味太郎さんの講演会『教  
育ってなんだ?』を開催しました。  
そして、周りにいる不登校や発達  
障害の子どもを抱える親たちに

## 「いまできること～布マスクづくり～」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、さまざまな事業が中止になりました。そのなかでも、「好き」や「得意」を活かして、「自分たちにできることをやろう」と行動した方々をご紹介します。

.....

■ボランティアセンターで月1回実施している「夕ごはん会」が3月以降中止となりました。そこで、ごはん作りのボランティアとして活動している有志の方で、新たに布マスク作りチーム「おせっかい」を結成。

3月からせっせと布マスクづくりを始め、4月上旬、子どもたちが通うフリースクール「僕んち」に40枚のマスクを寄付しました。



せた人が  
キラリ

特別編

世田谷を中心に活躍する  
キラリと光る素敵な方がたを  
ご紹介し  
ます  
取材●事務局



マスクをありがとう！

### ■フリースクール僕んちより

「子ども達に手作りマスクを手渡したいという愛にあふれたメッセージ。マスクと共に、受け取らせていただきました。子どももご家族も、たいへん感謝しております。世の中に一歩先んじて発想されたこと、日頃のご活動の賜物と、敬服いたします。いずれコロナがおさまったら、おむすび食堂へご来訪くださるのを楽しみに現状を子ども達と乗り越えてまいります！」

■このほかにも梅丘ビューローでは、「てしごとグループ」の方々が布マスクをつくって必要としている方にお分けしたり、ボランティア協会の手芸が得意なスタッフが布マスクをつくり、ご家族がお世話になっている高齢者施設に寄付したそうです。



## ご相談ください

### 個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。今、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではあります。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決でき

### 個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障がいや学習障がいの傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合うことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小・中学生の個別の学習支援に取り組み、ボランティアの紹介を行っています。新型コロナウイルス感染防止のため、現在は対面での学習支援は

るのかわからないという方は、お電話でご相談ください。

電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター(火曜・土曜9時~17時)  
TEL 5712・5101

控えています。オンラインでの試みも取り組み始めています。

勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっていきます。お気軽にご相談ください。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 高居・青木  
TEL 5712・5101  
takai@otagatsama.or.jp

## ボランティア求む

### 感覚過敏の女性の家事ボランティア募集

梅雨や台風の時期の気圧変化や夏の日差しにより、めまいや手指の触覚の過敏さといった形で体の不調が出てしまう20代女性が、体調が悪いときに簡単な家事をしてくださる方を求めています。近所での買い物、「ゴミ出し、食器洗い、簡単な掃除機かけなど」をお願いしたいです。詳細はお問い合わせください。

- 日時/不定期(事前にメール等で日時を相談)、多くても週1~2回、1~2時間程度
- 場所/自宅(下北沢近辺)
- 条件/女性限定、交通費支給(上限あり)
- 問合せ/玉川ボランティアアビュローク  
電話 3707・3528  
tabor@otagatsama.or.jp

### 医療従事者にお弁当を届けてくださる方募集

千歳烏山にある世田谷下田病院が5月から新型コロナウイルス患者の受け入れを始めます。千歳烏山の商店街では医療に従事される方を応援するために、食事(弁当)の支援をすることとなりました。その弁当を配達してくださるスタッフを募集します。

- 内容/商店街の指定店から病院への弁当の配達(1回10~20食)
- 期間/6月以降(収束するまで)
- 時間帯/朝8時、昼11時、夜18時の1日3回(時間はお弁当の到着時間)

- ※自分の活動できる日と時間帯で申し込みOKです。
- 対象/千歳烏山駅周辺にお住まいの方
- 場所/世田谷下田病院(世田谷区南烏山4・9・23)
- 条件/有償(区内共通商品券500円分)
- 主催/千歳烏山商店街連合会
- 問合せ/申込/NPO法人シニア・コミュニケーション  
電話 6629・0613  
senior.com@com.zaq.ne.jp



## ハガキで励ましつながらろう！ おうちですごそうプロジェクト

《BOXが置いてある場所》

新型コロナウイルスの影響で、出かけられず、家にいる高齢者が増えています。このプロジェクトは、いろいろな人にハガキを書いてもらい、それを高齢者の方たちに届けることで、元気もお届けするプロジェクトです。ご協力いただけたいです。詳しくは当協会のホームページをご覧ください。（12ページ参照）

●ハガキの書き方／  
ハガキサイズの紙に、好きな絵をかいてください。（画用紙でもOK）

- ・もらった人がうれしくなるような言葉をおくりましょう。
- ・封筒に入れず、切手も貼らず、そのままお持ちください。
- ・自分の住所・電話番号は書かないでください。

### ●ハガキの送り方／

世田谷ボランティアセンターと下記のあんしんすこやかセンターに、専用ボックスがあるのでそこにに入れてください。あんしんすこやかセンターの人が、高齢者の方に届けてくれます。

・世田谷ボランティアセンター  
（火曜～土曜9時～17時）

・池尻あんしんすこやかセンター  
（池尻まちづくりセンター内）

・下馬あんしんすこやかセンター  
（下馬複合施設内）

・太子堂あんしんすこやかセンター  
（太子堂複合施設2階）

・上町あんしんすこやかセンター  
（上町まちづくりセンター2階）

・経堂あんしんすこやかセンター  
（経堂出張所内）

・二子玉川あんしんすこやかセンター  
（二子玉川複合施設2階）

・喜多見あんしんすこやかセンター  
（喜多見複合施設内）

・砧あんしんすこやかセンター  
（砧まちづくりセンター内）

・北沢あんしんすこやかセンター  
（北沢タウンホール地下1階）

※月曜～土曜8時30分～17時

※感染を防ぐため、複数人での来所は避けてください。

●問合せ／世田谷ボランティアセンター

TEL 5712-5101

### ■「おうちですごそうプロジェクト」とは

世田谷ボランティアセンターでは新型コロナウイルス感染拡大防止にともなう外出自粛や各種事業の中止などにより、地域の方々の生活にどのような影響が出ているのか知るために、4月3日から各団体にヒアリングを始めました。

そのなかで、外出ができずに孤独な思いをしている方々にむけて何かできないだろうかと考え、各地区のあんしんすこやかセンターのご協力のもと、4月半ばからこのようなプロジェクトに取り組んでいます。

右のような素敵なハガキがたくさん届いています。ぜひお手紙を書いて参加してみませんか。



「おうちですごそうプロジェクト」に届いたハガキ

「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

# 講座・その他・募集

## 東小

### 臨時休館のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、世田谷ボランティアセンター、ボランティアビューローは臨時休館し、お電話による相談・問合せ対応のみとさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。

※状況により利用中止期間を延長する場合があります。

●臨時休館のお知らせ

4月11日(土)～5月31日(日)は臨時休館とします。会議室

## 小

### 碓ボランティアビューロー準備室開設のご案内

2020年6月、ボランティア活動に関する相談窓口として、新たに「碓ボランティアビューロー準備室」を開設します。

「ボランティアしたい」ときや、「だれかの手助けが欲しい」ときに相談ができます。ボランティアグループの運営相談や、ボランティア関連の情報提供も行います。※会議室スペースはありません。

印刷室、フリースペースのご利用についても上記期間中は利用中止をお願い申し上げます。

●電話による相談受付時間

① ボランティアセンター  
火曜日～土曜日 9時～17時

※日曜日・月曜日・祝日は休館

② ボランティアビューロー  
月曜日～土曜日 10時～17時

※日曜日・祝日は休館

●問合せ／世田谷ボランティア協会  
TEL 5712・5101  
<https://www.otagaisana.or.jp/>

## 小

### ボランティア拠点の非常勤職員募集

世田谷ボランティア協会が運営する、地域のボランティア拠点で有給スタッフを募集しています。詳細はホームページをご覧ください。

●内容／ボランティア活動の推進にかかわる相談業務、諸事業の企画・実施、一般事務、施設の管理、バザーの企画・運営ほか

●勤務地／世田谷区内のボランティアビューロー

●交通／小田急線沿線

●勤務日／月曜日～土曜日のうち、週3～4日程度(ただし、月2回程度土曜日の交代勤務あり。出勤の曜日以外に月1～2回会議があります)

●選考方法／書類及び面接

●応募締切／適任者が見つかり次第締切。応募の前にお電話で問合せください。

●問合せ／世田谷ボランティア協会  
TEL 5712・5101  
<https://www.otagaisana.or.jp/>

### バザーの中止と次回予定

毎年5月下旬に開催していた「リサイクル市」(代田ビューローバザー)ともに、中止となりました。現在品物の提供も中止しております。次回の予定は、

①リサイクル市

9月24日(木) 10時半～14時  
世田谷ボランティアセンター

②秋の代田ビューローバザー  
10月下旬開催予定です。  
なお、今後の状況により変更になる場合があります。

●問合せ／世田谷ボランティア協会  
TEL 5712・5101

## 助成金情報

### 新型コロナウィルス感染症 拡大防止活動基金

READY FOR株式会社と、

公益財団法人東京コミュニティ財団による基金です。基金への寄付も募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

●対象/新型コロナウィルス感染症の拡大防止に取り組み、個人・団体・事業者・医療機関・自治体など

●基金の募集期間/4月3日(金)～7月2日(木) 23時まで

●助成決定時期/第3期6月11日(木)頃

### 新型コロナウィルス感染症拡大による 特別活動支援金

公益財団法人ウエスレー財団による基金です。詳細はホームページをご確認ください。

●対象/日本で新型コロナウィルスの感染拡大により生じる緊急救援、ならびに人道支援(社会的弱者に対する支援、社会福祉向上、児童又は青少年の健全な育成など)に取り組む活動

●助成申請受付期間/4月13日

第4期7月16日(木)頃

※日時は予告なく変更する可能性がございます。

●助成対象期間/2020年1月～2020年12月

※助成件数100～150件程度を想定。1件あたり助成額目安200万円～5000万円程度

●問合せ/基金運営事務局  
(READY FOR株式会社)  
grant\_covid@readyfor.jp  
https://readyfor.jp/projects/covid19-relief-fund

https://readyfor.jp/projects/covid19-relief-fund

～締切無し(順次選考)

●助成対象期間/2020年4月1日～2021年3月31日

●助成金額/1件上限100万円

●問合せ/公益財団法人ウエスレー財団 担当 生原(はじはら) grant@wesley.or.jp

https://wesley.or.jp/program/news/post-17.html

## 小冊子「世田谷区での水害と災害ボランティア活動」を作成しました!

■昨年の「令和元年東日本台風」による玉川地域等の水害に対して、多くのボランティアの皆さんに活動頂きました。せたがや災害ボランティアセンターでは、このたびの活動を踏まえてボランティアコーディネーターの方々が中心となって水害時のボランティア活動について検討を重ね、水害時のボランティア活動に関する冊子「世田谷区での水害と災害ボランティア活動」を作成いたしました。必要な方は、世田谷ボランティアセンターにお問合せください。(無料)

### 世田谷区での水害と 災害ボランティア活動



2019年8月撮影  
©2019 SETAGAYA VOLUNTEER ASSOCIATION  
社会福祉法人世田谷ボランティア協会  
せたがや災害ボランティアセンター

A4サイズ、28ページ

## 世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

### ●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058

### ●いのちを大切にするとこ「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13丸ビルM1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

### ●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13丸ビルM 2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13丸ビルM 2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

### ●障がいにとまなう「困った！」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13丸ビルM 2F TEL (6804)0405

### ●でんわだから、はなせるネ！ 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)  
\*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

## 拠点は今… 今月のおススメ！

### ◆センター&ビューローより

センター、ビューローとも会議室利用は中止していますが、電話による相談は受け付けています。誰かの手助けを必要とする方や、地域で何か活動しようと思ったときにご相談ください。いっしょに考えます。

### ◆ふらっと& withより

鯉のぼりは男の子の健やかな成長を願うことから黒一色だったのが、その後、家族全員のことを願うようになって青や赤の色が増えていったそうです。青空を見上げて優雅な鯉の泳ぎをみて、みんなの健康と安全を願いたいものです。

### ◆結・連より

介助を必要としている人がいます！世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です！

### ◆チャイルドラインより

新型コロナウイルスの影響で生活がすっかり変わり、子どもたちもいろいろなきもちを抱えていると思います。つながりにくいかもかもしれませんが、お話ししたいことがあるときは、0120-99-7777 に電話をかけてみてくださいね。

### 編集後記

- めまぐるしい1ヶ月間でした。生活が大きく変化し、当面の事業は中止になりました。人と人をつなぐ役割を担ってきた機関としてはもどかしい思いがありますが、いま何ができるのが新たな知恵を絞りしたいと思います。
- 本誌は通常16ページ仕様ですが、募集情報が減ったため、今月は12ページです。早くまたいつものセボネが発行できる日を迎えたいと願います。
- 親子でなわとびトレーニング中。(み)

- 発行  
社会福祉法人  
世田谷ボランティア協会  
〒154-0002  
世田谷区下馬2-20-14  
TEL 03・5712・5101  
FAX 03・3410・3811
- E-MAIL  
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ  
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人  
横山 康博

